

(様式4)

食育パートナーシップ事業 ～ 直売所と連携した食育実践活動 ～

健康福祉事務所名 宝塚

1 食育推進状況

食育推進課題	管内では北部を中心に農業が盛んな地域もあるが、若い世代の多くは南部やニュータウン地域に居住しており、地域の農業に親しむ機会に乏しい。
推進方策	「次世代を担う世代への食育推進」と「地産地消の推進」を取り上げ、地場産品直売所を拠点とした実践活動を実施し、関係者間の連携強化を図る。
進捗状況	関係機関・団体の協力のもと、地産地消と若い世代の食育実践を目的とした実践活動を実施し、関係者間の連携強化に繋がった。

2 食育関係者

○関係機関	JA兵庫六甲宝塚営農支援センター JA兵庫六甲三田営農総合センター
○地域団体	宝塚いずみ会 三田市いずみ会 宝塚栄養士会 三田地域活動栄養士の会
○行政機関	宝塚市農政課 宝塚市健康推進課 三田市農業振興課 三田市健康増進課 阪神農業振興事務所農政振興課

3 食育パートナーシップ実践活動の概要

実施テーマ	地産地消の推進 ～直売所と連携した食育実践活動～		
対象及び参加者数	幼児から小学校低学年の親子 1回目:12組27名 2回目:12組30名 3回目:11組23名 合計:35組80名		
課題及び目標	農産物直売所を拠点とし、子どもが自ら食材を選び、調理する力を身につけることを目指した実践活動を、関係機関・団体が連携して実施する。		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	7月29日(金) JA兵庫六甲三田営農総合センター	・講話「地元で採れる野菜の話」 ・直売所見学、調理実習 ・≡講話「三田市の食育について」	JA、いずみ会、市健康増進課、宝塚健康福祉事務所
	8月9日(火) 宝塚市立東公民館	・講話「地元で採れる野菜の話」 ・調理実習 ・≡講話「バランスのよい朝食について」	JA、いずみ会、市農政課、宝塚健康福祉事務所
8月19日(金) 多世代交流館ふらっと	・講話「地元で採れる野菜の話」 ・直売所見学、調理実習 ・≡講話「三田市の食育について」	JA、地域活動栄養士の会、市健康増進課、宝塚健康福祉事務所	
評価結果	実践活動を通じて地元野菜や調理に関する知識及び意識の向上に繋がり、今後の家庭での取組みにも期待できることから、地産地消及び子どもの食育実践について考えるきっかけづくりとなった。 2年間、共に実践活動を実施することで、お互いの顔が見える関係づくりができ、今後も関係機関・団体が連携した食育事業の展開が期待できる。		

平成28年度食育パートナーシップ事業 地産地消の推進～直売所と連携した食育活動～

◆管内の特徴と食育推進方策

管内では北部を中心に農業が盛んな地域もあるが、子育て世代や若い世代の多くは南部地域の市街地やニュータウンに居住しているため、生産者との交流や、地元の農産物に親しみ地産地消を実践する機会に乏しい。

このため、「次世代を担う世代への食育推進」と「地産地消の推進」を取り上げ、関係機関・団体が連携し、地場産品直売所を拠点とした実践活動を展開する。

◆連携した関係機関・団体

JA 兵庫六甲宝塚営農支援センター、JA 兵庫六甲三田営農総合センター、宝塚いずみ会、三田市いずみ会、宝塚栄養士会、三田地域活動栄養士の会、宝塚市農政課、三田市農業振興課、宝塚市健康推進課、三田市健康増進課、阪神農林振興事務所

◆実践活動のねらい

【食に関する知識の習得】

- 旬の時期に地元でとれる野菜にどんなものがあるかを知る
- 地元の食材を活用し、家庭や地域で受け継がれてきた料理（伝承料理）を知る
- 健康的な食事の整え方を知る

【食の実践力の習得】

- 店舗で販売されている野菜を見て、自分で食材を選ぶ目を養う
- 簡単な食事を自分で作れるようになる

◆実践活動のテーマと実施方法

【地場産野菜 de おやこ食育講座】

テーマ①：「伝統的な家庭料理編」 テーマ②：「簡単ヘルシー朝食メニュー編」

- 生産者の立場からの講話「地元で採れる野菜の話」
- 直売所の見学
- 栄養士による講話「野菜をもっと食べよう」「バランスの良い朝食」
- 調理実習と試食 ①「地元野菜を使った伝統的な家庭料理」
②「地元野菜を使った簡単ヘルシー朝食メニュー」

地場産野菜 de おやこ食育講座

講話「地元で採れる野菜の話」・直売所見学



美味しいトマトの見分け方、知ってる？



三田は自然が豊かで農業が盛んです。



直売所見学

新鮮な旬の野菜がいっぱい



地元の野菜を使った調理実習



お味噌汁に入れる野菜を選びます。カボチャがとても美味しそうで大人気！

お米の研ぎ方や煮干しの下処理の仕方も学びます。



講話「野菜を食べよう」等



野菜は1日5皿！

皆で美味しくいただきました！



取組みの評価と今後の課題

- 食育講座への参加を通じて、地元野菜や調理に関する知識や意識の向上に繋がった。
- アンケートでは「家庭でも実践したい」「お手伝いがんばる」など前向きな声が多く、地産地消や子どもの食育実践について考えるきっかけづくりができた。
- 関係機関・団体が連携して実践事業の企画・運営することで、お互いの顔が見える関係づくりができた。今後も地域に根ざした食育推進が期待できる。
- 無関心層への働きかけ方や、地産地消を実践しやすい環境づくりが課題。